



2016年3月3日

各位

会社名 昭光通商株式会社
 代表者名 代表取締役社長 宮崎 孝
 連絡者役職名 企画部長 森田 聡
 電話番号 (03) 3459-5045
 (コード番号 8090 東証第1部)

(訂正)「新中期経営計画の推進について」の一部訂正に関するお知らせ

当社は、平成28年2月10日に発表いたしました「新中期経営計画の推進について」の一部について訂正がありましたので下記の通りお知らせ致します。訂正箇所は下線を付して表示しております。

記

訂正の内容

2. 新中期経営計画計数 (連結)

(訂正前)

2. 新中期経営計画計数 (連結)

(単位：億円)

	2015年実績	2016年計画	2020年計画
売上高	1,362	1,428	1,554
営業利益	10.7	20.0	25.3
当期純利益	▲125.7	※14.4	※16.6
純資産	45	67	127

当社グループでは上述の通り、中国鉄鋼関連ビジネスにおいて、多額の貸倒引当金繰入額を計上したため、2015年の当期純利益は大幅なマイナスとなりました。2016年以降は、引き続き債権の回収に努めるとともに、基盤ビジネスをベースに着実に業績を回復させていく計画であり、最終年(2020年)の目標営業利益を25億円としております。

※親会社株主に帰属する当期純利益

2016年計画 14.4億円×44%=6.3億円(本日発表の決算短信公表値 6.0億円)

2020年計画 16.6億円×44%=7.3億円

(訂正後)

2. 新中期経営計画計数（連結）

(単位：億円)

	2015年実績	2016年計画	2020年計画
売上高	1,362	1,428	1,554
営業利益	10.7	20.0	25.3
当期純利益	▲125.7	14.4	16.6
純資産	45	67	127

当社グループでは上述の通り、中国鉄鋼関連ビジネスにおいて、多額の貸倒引当金繰入額を計上したため、2015年の当期純利益は大幅なマイナスとなりました。2016年以降は、引き続き債権の回収に努めるとともに、基盤ビジネスをベースに着実に業績を回復させていく計画であり、最終年（2020年）の目標営業利益を25億円としております。

訂正後の「新中期経営計画の推進について」は別添のとおりです。

以上

2016年3月3日

各位

会社名 昭光通商株式会社
代表者名 代表取締役社長 宮崎 孝
連絡者役職名 企画部長 森田 聡
電話番号 (03) 3459-5045
(コード番号 8090 東証第1部)

新中期経営計画の推進について（訂正）

当社グループでは、昨年、2016年からスタートする5ヶ年の新中期経営計画を策定いたしました。既に諸施策の実行に取り組んでおりますが、今般、2015年決算の発表に合わせ、下記の通りその概要（基本戦略、達成目標等）につき、お知らせいたします。

記

1. 新中期経営計画の位置づけ及び全体戦略

当社グループは、前中期経営計画期間（2011年～2015年）中において、全体戦略に基づきM&A、海外事業の拡充を積極的に推進し、順調に収益を拡大してまいりました。

しかしながら、当社グループの損益構造は、中国国内の鉄鋼関連メーカーグループとの取引に大きく偏重する形となり、計画最終年の2015年において、当該取引で同社グループからの支払遅延が発生し、多額の貸倒引当金繰入額を計上することとなりました。このため、当社グループの財務内容は極めて悪化する結果となりました。

以上から、2016年より新たにスタートした5ヶ年の中期経営計画は、「当社グループの再建計画」と位置づけており、以下の5つの全体戦略を掲げております。

【全体戦略】

- I. <管理> リスク予測機能の強化（内部統制・与信管理等）
- II. <構造> 成長分野への投資、不採算事業からの撤退
- III. <成長> 主要顧客への深耕、新顧客開拓、高収益事業への進出
- IV. <競争> エンドユーザー密着型ビジネスモデルの構築
- V. <地域> 東南アジア地域を重点エリアとした事業展開

2. 新中期経営計画計数（連結）

（単位：億円）

	2015年実績	2016年計画	2020年計画
売上高	1,362	1,428	1,554
営業利益	10.7	20.0	25.3
当期純利益	▲125.7	14.4	16.6
純資産	45	67	127

当社グループでは上述の通り、中国鉄鋼関連ビジネスにおいて、多額の貸倒引当金繰入額を計上したため、2015年の当期純利益は大幅なマイナスとなりました。2016年以降は、引き続き債権の回収に努めるとともに、基盤ビジネスをベースに着実に業績を回復させていく計画であり、最終年（2020年）の目標営業利益を25億円としております。

3. セグメント個別戦略概要

<合成樹脂セグメント>

中国・台湾・韓国及び東南アジアへの合成樹脂原料輸出・三国間貿易の拡大を図ります。国内においては、提案型営業の推進により、基盤となっている合成樹脂原料ビジネスは勿論のこと、製品ビジネスにも進出し、当社主要顧客への深耕、並びに新規開拓への取り組みを強化してまいります。

<化学品セグメント>

主力の有機・無機化学品や理化学機器等、当社がメーカーポジションとなる商材の取り扱いを増加させ、顧客満足度の向上を追求いたします。また、昭和電工グループ・昭光通商グループ企業との連携強化、並びに 主力商材の貿易取引 を軸に、持続的な成長を目指します。

アグリ事業では、肥料・農業資材の 地域密着型営業 はもとより、農家の大規模化・農業生産高度化に応じた トータルソリューションの提供 を推進いたします。

<金属セグメント>

軽金属原料・加工品及びセラミックス原料等のビジネスにおいて、「主要商材の横展開」及び「主要顧客への深耕」の2軸による営業を推進し、安定的な収益基盤を拡大するとともに、新規開拓に取り組みます。また、成長ドライバーとして、中国・東南アジアエリア を中心とした貿易ビジネスを強化いたします。

<生活環境セグメント>

主力の建築関連分野では、安全・環境・省エネ・省力化に資する商材の強化育成 を、主

要顧客への深耕、新期取引の開拓により行ってまいります。また、住宅分野においては既存商材に加え、今後成長が期待できる リフォーム市場に向けた新規商材の取扱いを拡大 します。

エレクトロニクス関連では、LED 製品やエレクトロニクス機器等の最新技術分野において、 貿易取引に注力 し、次世代の収益基盤の確立を目指します。

<海外その他セグメント>

海外現地ビジネスにおいては、当社グループの国内拠点と連携を深め、合成樹脂、軽金属を中心に、東南アジア地域でのビジネス展開を加速 させます。また、国内の保険代理店事業や人材派遣事業については、新商品・新サービスの投入 等により、更なる収益基盤の安定化を目指します。

4. セグメント別計画計数

(単位：億円)

セグメント	項目	2015 年実績	2016 年計画	2020 年計画
合成樹脂	売上高	370	368	429
	営業利益	0.7	1.8	3.7
化学品	売上高	429	452	488
	営業利益	4.2	5.1	8.1
金属	売上高	390	406	432
	営業利益	2.0	6.3	7.8
生活環境	売上高	117	156	138
	営業利益	2.2	4.4	2.7
海外その他	売上高	56	45	66
	営業利益	1.5	2.4	3.0
合計	売上高	1,362	1,428	1,554
	営業利益	10.7	20.0	25.3

5. 復配に向けて

新中期経営計画では、2019 年末までには財務内容を配当可能な水準まで改善し、2020 年 3 月から配当を再開する目標を掲げております。当社グループは本計画を全社一丸となって強力に推進し、目標利益の達成、復配に向け邁進します。

以上

※本資料に記載している将来の業績に関する計画・予想等は、現在入手可能な情報等に基づいて作成しておりますため、市況や為替相場の変動、法令・会計基準・慣行等の変更等により、将来の実績

値と大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おき下さい。